

住経験が住宅の設計および居住後評価に与える影響 その3 — 施主を対象としたインタビュー調査を通じて —

住経験	住宅設計	居住後評価	正会員	小森 幸*
記憶	要望	情報源	同	○柳沢 究**
			同	服部 正子***
			同	彌重 功***
			同	井上 泰地****

1. 背景と目的

住経験^{文1)}を調査する際の課題として、「住経験の詳細な描出には空間把握や作図などの建築学的素養が必要であること」、「プライバシーに深く関わる住経験は他人に開示されにくいこと」の2点が指摘され^{文2)}、それらを克服する手法として住経験インタビューが考案された^{文1)}。

新しい住まいの設計時には、設計案の質の向上への期待が住経験開示のインセンティブとなるため、設計者が施主の住経験を引き出す手法として住経験インタビューが成立する素地は十分にあると考えられる。

本報に先駆けて実施したWebアンケート調査では、設計時に施主が考慮する住経験の多様性や設計時に住経験の影響を受けることで居住後評価が高まる可能性が明らかになった。同時に、重視した5要素に関する要望における住経験の考慮の程度には、人や要望の対象によって偏りがみられ、振り返りの難しさや開示の抵抗感といった活用の課題も浮かび上がった。不特定多数を対象としたWebアンケート調査は大まかな傾向の把握に適しているが、複雑な情報を高い解像度で扱うことが難しい。本報では、住経験インタビューを応用したインタビュー調査によって、特定の施主の住経験の具体的な影響を住居遍歴や実現した住まいの平面図と紐付けて詳細に把握し、住経験ならびに住経験インタビューの活用可能性を考察する。

2. 調査の方法

機縁法を用い、自身が設計に関与^{注1)}した持家の戸建て注文住宅で暮らす4名の施主を対象としたインタビュー調査を2024年10月に実施した。対象者ごとの概要を表1に示す。対象者の人数が限られているため、設計時の要望が過度に制約されないよう、延床面積の条件は90㎡以上とした。調査の時間は1名あたり約2時間とし、内容は図1の構成を基本とした。4名の対象者のうち2名は本調査に参加する以前に住経験インタビューを受けたことがあり、対象者によって調査の前提となる状況にばらつきがあるため、質問の入れ替えや追加等の柔軟な対応をとった。対象者にとって重要かつ実現した要望や住経験の影響が自覚されている要望を中心に聞き取ることを試みた

が、重要であったかが不明な要望や実現しなかった要望についても、時間の許す限り聞き取ることにした。

3. 特徴的な影響

要望の形成から実現に至るまでの経緯やその後の暮らしに着目すると、住経験が巧みに活用された例やその難しさを示唆する例など、特徴的な影響がみられた。

対象者 AI からは、複数の住まいにおける住経験を総合して自身に適した在り方を選択した例が語られた(図2)。一方で対象者 EM からは、同居する家族にもそれぞれの住経験があり、そのことが意見の不一致が生じる一因となった可能性を示唆する例が語られた。さらに自身で間取りを描いて工務店に依頼した対象者 TM からは、本人でさえも見落としてしまう住経験があることから、専門家のアドバイスの必要性を指摘する例が語られた。

住経験をより有効に活用するために、本人による意識的な振り返りに加えて、総合的な判断を行える専門家からのアドバイスを受けることが重要であると考えられる。

4. 潜在的な影響

特に対象者 AI および KN のインタビューで得られた語りには、事前アンケートの回答に表れていない住経験の潜在的な影響がみられた。

対象者 AI の事前アンケートのうち、現在の住まいの設計に関与した際に重視していた5要素に関する実現した要望について、特に影響を受けた情報源を3つまで選択する設問の回答を表2に示す。対象者 AI は、現在の住まいを設計する際の過去の自身の住まいの影響については「直近・子どもの頃・その他」のいずれの時期の住まいについても実感していると回答していたが、表2において住経験に該当する「直近の自身の住まい」、「子どもの頃の自身の住まい」、「その他の自身の住まい」を確認すると、いずれも選択されていない。しかし、インタビューでは「8:交通や生活の利便性」や「11:将来の展望」と関連して、山を切り崩した新興住宅地の住まいを処分した際に価値が大きく下がってしまったことを勿体なく感じた経験から価値が下がりにくい場所を探したことなど、住経験の影響が語られた。この点について直接理由を確認す

ることは出来なかったが、影響を受けた情報源について、対象者 TM から「住経験はベースとしてはあると思うが、それほど直接来ているわけではない」という趣旨の指摘があった。施主にとって住経験がやや間接的な情報源として位置付けられていることが、事前アンケートの回答とインタビューでの語りのギャップに表れている可能性がある。

また、対象者 KN は事前アンケートにおいて、現在の住まいを設計する際に「直近・子どもの頃・その他」のいずれの時期の自身の住まいの影響も実感していないと回答していた。しかし、インタビューでは過去の家があまり新しく建て替える家の参考にはならないタイプであるとの認識を示しつつも、同時にプライバシーがない状態の住まいでの経験からプライバシーに配慮した要望を行ったことなど、住経験の影響が語られた。事前アンケートの段階ではこれまでの住まいに対して抱いている漠然とした印象が回答に表れていたが、インタビューによってその詳細が紐解かれた可能性がある。

5. 住経験インタビューの活用可能性

調査の感想では、事前に必要な振り返りに関しては個人差があるものの、インタビューによって認識が鮮明になることや、設計時に住経験を伝えたことが要望への理解を得ることに繋がったことなどが語られた。3名の対象者は設計時にこれまでの住まいについて聞かれることはなかったと言い、自ら説明する場合を除いて、設計時に施主の住経験が直接的に引き出される機会はありません。その一方で、住経験を言語化することの難しさを指摘する感想もみられたことから、施主による自発的な語りを待つだけでなく、設計者側からの積極的なアプローチが有効であると考えられる。

6. まとめ

住経験を活用する上で、施主による振り返りに加えて設計者の理解を得ることが重要である。アンケートでは潜在化していた影響がインタビューを経て顕在化したことなどから、住経験インタビューを応用したアプローチが有効であると考えられる。施主の住経験がどの程度設計者に伝えられ、反映されているのか、設計者に対する詳細な調査で実態を把握することが今後の課題となる。

注釈

[1]設計への関与を「設計者または打合せの担当者に、要望を伝えること。または、設計を他者に依頼せず、自身で要望を考慮しながら行うこと。」とする。
[2]事前アンケートとして、対象者 TM および KN からは簡易版 Web アンケート調査への回答を、対象者 EM および AI からは Web アンケート調査への回答を得た。

主要参考文献

[1]柳沢究・水島あかね・池尻隆史：住経験インタビューのすすめ、西山卯三記念 すまい・

まちづくり文庫、pp.2-5, 2019

[2]柳沢究・水島あかね・池尻隆史：建築学生による親の住経験のヒアリング-住経験の間接的把握手法とその評価に関する研究 その 1-、日本建築学会大会学術講演梗概集(建築計画)、pp.1373-1374, 2018

表1インタビュー調査の実施概要

対象者	日程	方法	住経験インタビュー	年齢	性別	調査時点 居住年数	経験 住居数*1
TM	R6.10.10	対面	経験あり	71	男性	15年	7
KN	R6.10.13	オンライン	経験あり	62	女性	21年	4*2
EM	R6.10.14	対面	経験なし	39	女性	3年	6
AI	R6.10.14	対面	経験なし	37	女性	1年	6

*1:現住居を除く *2:うち1軒で複数回の増築・改装を経験

0. 事前準備
・事前アンケートの実施 / 住居履歴・現住居の図面など補助資料の取得 ・「子どもの頃の自身の住まい」と設計への関与の程度の確認
1. 設計時の要望
・内容 / 目的 / 背景 / 現状 / 評価 / 情報源 (住経験・その他)
2. インタビュー調査の感想
・新たな気付き / 自身で振り返ることと比較したときの利点や課題 ・住まいの設計時にこれまでの住まいを振り返ることの可能性

図1インタビュー調査の基本構成^{注2)}

キッチンの配置：複数の住居での経験を総合し、自身に適した在り方を選択

キッチンに関する住経験の概要 抜粋

住居2 特微1	・扉で完全に独立したキッチンがあった ・独立したキッチンは嫌だ ・家族がキッチンに立ちやせいや開け閉めの方がいいと感じた
住居4 特微1	・収納がなく、人が入ってきたときにキッチンや食品を保存しているのが先見えになってしまふことが気がついた
住居5 特微1	・対面キッチンだった ・見えないことで数回やり直しになった ・あまり見えなすぎるのも合わないと感じた
住居6 特微1,2	・昔ながらの家で14畳の真四角のLDKだった ・キッチンがリビングと併せて後ろ向きに付いていたため、小さかった子どもが何をしているかわからず、作業をしても気がなつてとても使えにくく、場所も悪かった ・真四角の部屋で、入ロやキッチン、家電のためのコンセントの位置の関係で全てが見えなかったため、両方付けて綺麗にしておかないと人を呼べず、ストレスがあった

キッチンに関する住経験の概要 抜粋
実現した住まい 2F. 対象者提供の図面と語りをもとに作成

図2対象者 AI による住経験の巧みな活用事例

表2 対象者 AI の事前アンケート_抜粋

選択された情報源	雑誌・書籍・画例	テレビ	インターネット・ブログ・ウェブサイト・YouTube	パンフレット・DM・カタログ	会社・家のアドバイザー・相談	両親・友人・知人の経験・アドバイス	同僚・友人・知人の希望	ショールーム・住宅展示場・完成	空想体験	近頃の自身の住まい	子どもの頃の自身の住まい	その他の自身の住まい	自身の直感・なんとな〜	おからない
1: キッチンの設備		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
1: 水回りの設備		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
1: その他、「もの・家具・設備」		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4: 部屋の配置や動線の工夫		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4: 実用・美観の両立		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4: 複数設ける場所		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4: 階数		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4: 部屋数		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4: 家の形、「間取り・動線・屋根」		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5: 家事		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5: 健康・衛生		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5: 窓		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5: 収納		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5: 仕事		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5: その他、「屋内の使い方」		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8: 交通や生活の利便性		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8: 自然環境		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8: 設備仕様		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8: その他、「立地」		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11: 将来の要望		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11: その他、「維持・管理」		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

*京都大学大学院 工学研究科 修士課程

**京都大学大学院 工学研究科 准教授・博士 (工学)

***積水ハウス株式会社 総合住宅研究所

****積水ハウス株式会社 しあわせ住まい研究所

* Graduate Student, Graduate School of Eng., Kyoto Univ.

** Assoc. Prof., Graduate School of Eng., Kyoto Univ., Dr. Eng.

*** Comprehensive Housing Life R&D Institute, Sekisui House, LTD.

**** SHIAWASE SUMAI Institute, Sekisui House, LTD.